

Contents

[はじめに] 001

Chapter 0

才能を伸ばす 親子関係の基本 014

- 001 子どもの自尊心を高める褒め方 (IB教育) 016
- 002 スマホタイムを減らして家のお手伝いをさせる (モンテッソーリ教育) 018
- 003 期待ではなく、応援する (STEAM教育) 020
- 004 親子で散歩を楽しむ (フレーベル教育) 022
- 005 マナー教育は親子の時間から (モンテッソーリ教育) 024
- 006 子どもの「なぜ?」にとことんつき合う (STEAM教育) 026
- 007 子どもの個性や気質に応じた対話を心がける (ジュタイナー教育) 028
- 008 家族キャンプで学びを血肉にする (ESD) 030
- 009 失敗を恐れずにすむ環境を整える (STEAM教育) 032
- 010 親の歌声とともに遊んで情緒を育てる (フレーベル教育) 034
- 011 子どもの健全な成長を促す父親のあり方 (モンテッソーリ教育) 036
- 012 親から子へ「手本」を見せる (ESD) 038

- 013 家の中にアトリエ空間をつくる (レッツォ・エミリア・アプローチ) 040
- 014 親子での「折り紙遊び」で脳と体の発達を促す (フレーベル教育) 042
- 015 親子でともに考える「声かけ」をする (IB教育) 044
- 016 発達の現在地を正しく把握する (モンテッソーリ教育) 046

Column 0 子育てに失敗は存在しない 048

Chapter 1

感覚を 発達させる 052

- 017 「敏感期」は、ものにたくさん触れさせる (モンテッソーリ教育) 054
- 018 遊びで運動能力や自尊心の成長を促す (フレーベル教育) 056
- 019 自然を通じて五感を磨き、表現力を育てる (レッツォ・エミリア・アプローチ) 058
- 020 「12の感覚」で個性を伸ばし、成長を促す (ジュタイナー教育) 060
- 021 「広い空間」で、子どもが自ら発達する力を育む (モンテッソーリ教育) 062
- 022 「恩物」で集中力と独立心を伸ばす (フレーベル教育) 064
- 023 生命の営みを、自然との触れ合いで学ぶ (ESD) 066
- 024 「感覚教具」で探求心と知性を伸ばす (モンテッソーリ教育) 068
- 025 教科横断的な学びで理解力を深める (STEAM教育) 070
- 026 音遊びと静けさで感受性を豊かにする (ジュタイナー教育) 072

027 創作で発想力と自己表現力を伸ばす （レッジョ・エミリア・アプローチ） 074

028 しばりつけず、入れ物に入れずに育てる （モンテソリー教育） 076

Column 1 子どもの運動能力の伸ばし方 078

Chapter 2

創造力を引き出す 082

029 子どもの感じたことや考えたことを一緒に面白がる （STEAM教育） 084

030 時間制限を設けず、好きな活動に没頭させる （レッジョ・エミリア・アプローチ） 086

031 「勉強しなさい」から
「子ども自身が知りたいことを学ぶ」へ （STEAM教育） 088

032 子どもの「表現したい」サインを見逃さない （旧教育） 090

033 「規律ある自由」を与える （レッジョ・エミリア・アプローチ） 092

034 お絵描き＋声かけで、内面世界を豊かにする （シュタイナー教育） 094

035 自然素材を使って創造力を鍛える （レッジョ・エミリア・アプローチ） 096

036 ハリウッドスターも実践！「音感ベル」 （モンテソリー教育） 098

037 美しく、質のいいおもちゃで遊ばせる （フレール教育） 100

038 言葉や音楽を全身で表現する （シュタイナー教育） 102

039 自由な発想で新たな価値を生み出す （STEAM教育） 104

040 想像力を伸ばす人形遊び （シュタイナー教育） 106

041 科学×アートで創造力を育む （STEAM教育） 108

Column 2 わが家が実践するアート教育 110

Chapter 3

言葉の力を育む 114

042 「敏感期」には、読み書きしなくなる環境を整える （モンテソリー教育） 116

043 母国語を大切にしつつ「第二言語」を伸ばす （旧教育） 118

044 遊具を活用して語彙を増やす （フレール教育） 120

045 英語を「外国語」ではなく
「世界とつながるツール」と認識させる （旧教育） 122

046 歌や読み聞かせで「話す力」を育てる （フレール教育） 124

047 文字を感覚でとらえる習慣づけをする （シュタイナー教育） 126

048 指先を動かして「読み書きする力」の土台をつくる （フレール教育） 128

049 ルールを決めて外国語に触れさせる （旧教育） 130

050 家庭での会話に「新しい言葉」を取り入れる （ESD） 132

051 語りかけとスキンシップで言葉の力を育てる （シュタイナー教育） 134

052 論理的思考力や想像力を育てる「積み木遊び」 （フレール教育） 136

053 「世界で起こっている出来事」について親子で話す （ESD） 138

Column 3 英語教育は絶対に必要？ 140

Chapter 4

社会性を授ける 144

- 054 学年の違う子どもと遊ばせる (モンテッソーリ教育) 146
- 055 「4つの気質」ごとに関わり方を変える (シュタイナー教育) 148
- 056 「IB ディプロマ」で国際的視野を養う (IB教育) 150
- 057 「グリーンスクール」で
世界標準のリーダーシップを育む (ESD) 152
- 058 「プロジェクト型学習」で社会性を伸ばす (STEAM教育) 154
- 059 国際教育で道徳心を培う (IB教育) 156
- 060 「アトリエ活動」で傾聴力を磨く (レジャ・エミリア・アプローチ) 158
- 061 新時代の学校選びの秘訣 (IB教育) 160
- 062 多世代交流で、成長の芽を育む (フューエル教育) 162
- 063 理系×文系の学びで、
論理的思考力が身につく (STEAM教育) 164
- 064 環境教育で未来のリーダーを育てる (ESD) 166

Column 4 日本の素晴らしい教育・文化 168

Chapter 5

自尊心を育てる 172

- 065 褒めどき、叱りどきの境界線を把握する (モンテッソーリ教育) 174
- 066 親が口を挟まないことで「やり抜く力」が育つ (レジャ・エミリア・アプローチ) 176
- 067 自分の意見を伝える習慣づけて、
自己肯定感が高まる (IB教育) 178
- 068 テストの点数では測れない
「学びの質」を大事にする (シュタイナー教育) 180
- 069 創作活動に夢中になることで
自信と達成感が生まれる (レジャ・エミリア・アプローチ) 182
- 070 「子どものニーズに合致しているか」を
基準として判断する (フューエル教育) 184
- 071 日常生活で「社会貢献」の意識づけをする (ESD) 186
- 072 仲間との共同プロジェクトで視野が広がる (IB教育) 188
- 073 生活の中で「ありがとう」「どうぞ」の
言葉を交わす (フューエル教育) 190
- 074 幼児期から「自分について考える」
習慣づけをする (ESD) 192
- 075 子どもの自由な表現を制限せず、見守る (レジャ・エミリア・アプローチ) 194

Column 5 期待ではなく、応援する 196

Chapter 6

学ぶ力を伸ばす 200

- 076 実験で知識の活用力を高める (STEAM教育) 202
- 077 親子の対話で「本物の教養」を育てる (ESD) 204
- 078 主体性に任せた学びから、「得意」が伸びる (レジャ、エミリア、アプローチ) 206
- 079 プログラミング教育で「考える力」を磨く (STEAM教育) 208
- 080 幼児期の遊びから「学習の基礎」を固める (フレーベル教育) 210
- 081 早期から「抽象的な概念」に触れると、
学びが加速する (モンテッソーリ教育) 212
- 082 主体的に学ぶ姿勢が身につく「探究学習」 (IB教育) 214
- 083 リサイクル・リユースで
「持続可能な未来」を考える (ESD) 216
- 084 「4つの鍵」からやる気を引き出す (レジャ、エミリア、アプローチ) 218
- 085 遊び心を入りに、自主的な学びを促す (STEAM教育) 220
- 086 子どものとらえ方と対等に向き合う (ESD) 222
- 087 思わず学びたくなる環境を整える (シュタイナー教育) 224
- 088 興味のスイッチをONにさせる (ESD) 226
- Column 6 「東大」を目指すことだけが子育ての正解じゃない 228

Chapter 7

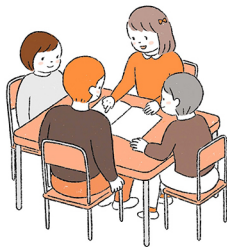
弱みを強みに
変える 232

- 089 「発達」の4段階に適した関わり方をする (モンテッソーリ教育) 234
- 090 子どものベースを尊重する (レジャ、エミリア、アプローチ) 236
- 091 「微細運動」で知性と社会性を身につける (モンテッソーリ教育) 238
- 092 「見立て遊び」でメタ認知を向上させる (シュタイナー教育) 240
- 093 正しいサポートで子どもの選択肢を増やす (レジャ、エミリア、アプローチ) 242
- 094 終始一貫して「子どもの味方」でいる (シュタイナー教育) 244
- 095 自然との触れ合いで、感覚を刺激する (ESD) 246
- 096 フォニックスと日常会話で英語力UP (IB教育) 248
- 097 家庭教育で子どもの自己教育力を引き出す (モンテッソーリ教育) 250
- 098 動物との触れ合いで思いやりの心を育てる (シュタイナー教育) 252
- 099 脳の「可塑性」を理解し、才能を伸ばす (フレーベル教育) 254
- 100 「百人百様」のありのままを受け入れる (ESD) 256
- Column 7 多様性を受け入れる日本社会にするために 258

054

モンテッソーリ教育

学年の違う子どもと遊ばせる



日 本の義務教育では、同学年の子どもが同じクラスで学ぶことが多いですが、モンテッソーリ教育では、縦割りクラスが基本。異年齢の子ども同士、同じ空間で生活をともにします。年齢の異なる子どもたちが一緒に遊び、関わることで、社会性や協調性を培い、自信を育んでいるのです。

たとえば、5歳児と3歳児が同じクラスで一緒に活動をするとうなんでしょうか。5歳児が遊ぶ姿に憧れ、3歳児は少し難しい遊びや活動にチャレンジするかもしれません。パンづくりをする際には、5歳児が3歳児に熟練したやり方を教え、先生から「ありがとう」と感謝され、誇らしい気持ちになるでしょう。また教えてもらった3歳児も、自分が5歳になったときには、ここぞとばかりに喜んでパンづくりを教える側になるでしょう。そして周りに感謝され、その流れがまた年下の子ども

に受け継がれていきます。

こうしたクラス編成は、まさに社会の縮図。会社で先輩が後輩にやり方を教えるように、年上の子どもが年下の子どもに教える文化ができあがっていきます。さらに子どもたちはやる気や自信を持ち、「貢献したい」という気持ちを見ます。その気持ちをベースに、誰かが誰かを教え、支えるサイクルが自然とつくられていくのです。

横割りクラスは、同年齢の子どもと一緒に学べるメリットがある一方で、「同じ年齢なのに、自分はその子より走るのが遅い」「同じ年なのに、自分はテストの点数が低い」などと、劣等感を抱きやすい側面もあります。他人と自分を比較しては、落ち込むことも少なくありません。横並びは、競争を生みやすいのです。

モンテッソーリ教育の縦割りクラスでは、優劣を決めることがありません。「みんな違ってみんないい」というように、それぞれが異なる能力を持ち、欲することも違う存在であると認め合っています。ですから、お互いが協力する雰囲気に満ちています。どこかひとつの家族のような、平和な空間なのです。

もし保育園や幼稚園、小学校で周りの子と比較して落ち込むことがあっても、どうか子どもを責めないでください。子どもは一人ひとり才能が異なるもの。異変に気づいた場合は、47ページでも紹介したように病院に行くなどの選択肢をとっていただきたいですが、そうでない場合は焦らず、できるだけ子どものいいところを観察し、育てる気持ちでいていただきたいと思います。

Point

縦割りクラスは誰かの役に立つ経験ができ、自尊心が育ちやすい



074

ESD

幼児期から「自分について考える」習慣づけをする



ESDでは、持続可能な未来を考えるために、まず自分自身を知ることが大切です。自分の価値観や関心、得意なことを理解することで、社会との関わり方が見えてくるからです。持続可能な社会の実現には、一人ひとりが主体的に考え行動することが不可欠ですが、その土台となるのが自己理解なのです。

とはいえ、「自分とは一体何者なのか？」という問いは、子どもたちにとっても難しいものです。子どもは家庭、保育園や幼稚園、学校といった小さな社会の中で、周囲からの反応を通じて自分という存在を形づくっていきます。「私はいつもニコニコしている」「僕はスポーツが得意」「私は面倒見がいい」など、周囲の評価を受けて自己イメージを形成するのです。

たとえば、縦割り幼稚園の年長児は、小さい子の世話や食事の準備、

掃除など、クラスに貢献できるを見つけます。これらの行動は、他の誰かから「ありがとう」と言われる経験の積み重ねによって、「私はクラスに貢献できている」という自尊心を育み、さらなる貢献行動へとつながります。

ESDの学校現場でも、環境問題や地域課題に向き合う際には、「私はどんな視点を持っているのか」を知ることが主体的な行動の基盤となります。自分を知ることが、他者との関係構築にも欠かせません。異なる考えを持つ人と協力するには、自分の意見を明確にして伝える力と、相手の考えを理解しようとする姿勢の両方が必要です。

このような対話と協同の過程を通じて、子どもたちは自分の考えをさらに深め、多様な視点から物事をとらえる力を養っていくのです。SDGsが掲げる「誰ひとり取り残さない」社会の実現には、このような相互理解の姿勢が不可欠です。

自分の強みや興味を活かしてアクションを起こせる人は、持続可能な社会への第一歩を踏み出します。モノづくりが好きな人は環境配慮型の製品開発に関心を持ち、人との関わりが得意な人は、地域活動で新たなつながりを生み出すかもしれません。

このように、自分自身を知ることから始め、自分の考えや価値観を深めながら他者と協力し、社会に貢献できる力を育むことが、持続可能な未来をつくる大きなパワーとなるのです。

Point

持続可能な社会を考えるには、幼児期から自分を深く理解する力が必要



084

レジョ・エミリア・アプローチ

「4つの鍵」からやる気を引き出す

子どもを伸ばす「4つの金鍵」



主体性



選択



意志



自尊心

これまでお伝えしてきたように、レジョ・エミリア・アプローチでアトリエ活動を行う際は、表現方法や材料など、あらゆることに自由が与えられます。そのため、子どもたちはのびのびと描き、つくり続けます。これらは一見学習と関係ないように見えますが、実は深いところで結びついているのです。

多くの大人は、わが子を「自分好みの子」に育てようとしています。とくに勉強面においては、子どもは何のために学習するのかもわからないうちに、机に向かって勉強をする環境が与えられます。こうしたやり方で、本当に思うような子どもに育つのでしょうか。

子どもを育てるには、「主体性」「選択」「意志」「自尊心」の4つのポイントがあると考えています。そして人間の脳には「幸せホルモン」と呼ばれるホルモンがあり、学習習慣を身につけさせるうえで深く結び

ついています。

主体性は、子ども自身の意志と選択によって生まれます。「今日はお洋服を着たい気分？ 2つ用意したけどどっちがいい？」「行きたい場所の順番を決めてみよう」などのように、日頃から子どもに小さな選択肢を与えます。すると選択の自由がドーパミンの分泌を促し、子どもは自ら考え、選び、行動します。この小さな成功体験を積み重ねることで、やる気や意欲がさらに高まるのです。

意志力も同様に、選択をくり返す中で強化されます。自分で決めたことに対して責任を持つことで、「自分にもできる」という自信を感じることができるのです。このときにオキシトシンが分泌され、他者との信頼関係や安心感が育まれます。さらに大人が「応援している」姿勢を見せることで、子どもは「挑戦してみよう」という意志をより強く持つようになるでしょう。

自尊心も、同様のプロセスの中で育まれます。自ら決めたことを大人に承認されると、子どもは「自分は価値のある存在だ」と感じるようになるでしょう。セロトニンはこの達成感や安心感と深く関わり、心の安定を保つ役割を果たします。これにより子どもは自己存在感を高め、学習への意欲を維持しやすくなるのです。

この4つのポイントを踏まえずして、学習は進みません。毎日親から指示命令のシャワーを浴びていると、子どもの心はどんどん弱ってきます。一時的に頑張って結果が出たとしても、心がもたないのです。

進んで学ぶ子どもに育てたい場合は、遠回りに見えても、自由を与えること。そして紹介した4つのポイントを意識して接するだけでも、また違った変化が得られるのではないのでしょうか。

Point

自由を与え、4つのポイントを尊重して接すると、勉強が好きな子に育つ

